(中)日本詩人クラブ例会・イベント　2008年１月

2008 平成20年１月　詩の学校「世界の詩を愉しむ夕べ」―思潮とポエジーの共有をめざして　担当理事：谷口ちかえ
日　時　１月17日(木)　午後６時～８時
場　所　(中）日本詩人クラブ事務所
内　容　「英米詩の周縁のうた」　講師：石原武氏

英文の詩を解説する石原武氏

〝世界の詩であろうとするならば地方的でなければならない。地方的であるということは、中央集権的にある種の権威らしきものに同化しない態度である〟との前置きのもとに、ジェームス・ジョイス、ラングストン・ヒューズ、シーマス・ヒーニー、ジョイ・ハージョなどの作品を鑑賞しました。中学生程度の英語だから、と、原文での鑑賞が主となり、英語の言い回し、韻などに魅了されました。参加者は25名ほど、英語の魅力にとりつかれた講義でした。

2008 平成20年１月 新年会　担当理事：村山精二、船木倶子
日　時　１月12日(土)　午後３時～
場　所　東京大学駒場Iキャンパス　ファカルティハウス　セミナールーム　電話:03-5790-5931
京王井の頭線「駒場東大前」東口下車、徒歩２分

寺田弘名誉会員・元会長の乾杯

2007年度入会、会員・会友の挨拶

2008年のスタートは新しい仲間も大勢迎え、99名の参加を得て盛大に行われました。平和な良い年であることを祈りましょう！

(中)日本詩人クラブ例会・イベント　2008年２月

2008 平成20年２月　詩の学校「世界の詩を愉しむ夕べ」―思潮とポエジーの共有をめざして　担当理事：谷口ちかえ
日　時　２月21日(木)　午後６時～８時
場　所　(中）日本詩人クラブ事務所
内　容　「多様化する韓国現代詩」　講師：佐川亜紀氏

　詩集が数十万部も売れるというお隣の国、韓国。しかも平明な詩ばかりではなく、難解な作品も読まれるという、日本の現状からは考えられないような実態が報告され、その秘密も判りやすく解き明かされました。参加者からは驚きの声が続出し、質問の多数出てにぎやかな講義でした。参加者は26名。懇親会も韓国詩の話題で盛り上がりました。

2008 平成20年２月　オンライン作品研究会　担当理事：原田道子、村山精二
日時　２月16日(土)午前10時～17日(日)午前10時
＊インターネットのメーリングリストを使ったクローズド研究会です。

提出作品（15編）
「背教と転向」直原弘道、「鶴の一声」水崎野里子、「自由」サーカー和美、「つんつるてん」北村愛子、「ウランバートルで男が捧げる誠実」早藤　猛、「ワンサカ」斎藤幸雄、「オルタネィティブ　エボリューション(別のやり方の進化)」越川泰臣、「イチョウ」くらもちさぶろう、「スパイス」入田一慧、「健康診断結果報告書」芳賀稔幸、「もしも　わたしが」須藤あきこ、「おさげ髪――『カモシタ』酒店の女主人に捧ぐ」琴　天音、「釣瓶落としの」田中健太郎、「手を汚さない犯罪者」堀内みちこ、「遺跡の街のポエジー」岡　三沙子

2008 平成20年２月 「詩と平和」の集い（広島会場）　担当理事：川中子義勝

＊２月例会は広島会場となりました

有限責任中間法人日本詩人クラブ・広島県詩人協会共催

今年度２回目の「詩と平和」の集いを、広島市にて下記にように開催しました。平和は世界の人々すべての願いです。私たち詩人も、詩を通してどのように平和に関わっていけるか、ともに語り合う場を持ちました。

○日　時　　2008年２月９日(土)　13:30〜17:00
○会　場　　広島平和記念資料館　東館地下1階　メモリアルホール
　　広島市中区中島１-２　電話 082-241-4004
○懇親会会場　広島国際ホテル　18時〜20時
　　広島市中区立町３-13　電話 082-248-2323
○宿　泊　　広島国際ホテル　１泊　7500円（シングル・朝食付・税・サービス込）
　　（ＪＲ広島駅から路面電車で約13分、立町駅下車徒歩２分・車では７分）
　　参加者割引価格です。宿泊希望の方は早めにお申込ください。
○参加費　　集い参加費　999円（高校生以下無料）
　　懇親会参加費　6000円

▪会場交通案内：ＪＲ広島駅（南口）から（約20分）
・バス／広島バス吉島方面行で「平和記念公園」下車
・市内電車／紙屋町経由字品行で「中電前」下車。己斐・宮島・江波行で「原爆ドーム前」下車

「詩と平和」の集い（広島会場）プログラム　　司会　吉田隷平
◎　開　会　13時30分
◎　開会の言葉　例会担当理事　川中子義勝
◎　挨　拶　有限費任中間法人日本詩人クラブ会長・佐久間隆史、広島県詩人協会会長・松尾静明

広島県詩人協会会長の挨拶　参加者は130名ほどでした

第１部　詩の朗読

岡　耕秋（長崎）　沖長ルミ子（岡山）　香山雅代（兵庫）　小島寿美子（山口）　島田陽子（大阪）　杉谷昭人（宮崎）　鷹取美保子（福岡）　中原道夫（埼玉）　薬師川虹一（京都）

詩の朗読の一齣

第２部　シンポジウム「詩と平和」

パネリスト：安藤欣賢（広島花幻忌の会代表・元中国新聞論説委員主幹）、小野恵美子（詩人・詩誌「タニグク」発行人）、西岡光秋（日本未来派編集長・元日本詩人クラブ会長）、御庄博実（医師・元中四国詩人会会長）

コーディネーター：中村不二夫（前日本詩人クラブ会長）

第３部　平和のうたコンサート　　日高摩梨（シャンソン）

◎　閉会の言葉　　日本詩人クラブ理事長　北岡淳子

懇親会（会場　広島国際ホテル）（18時～20時）　司会　長津功三良
開会の言葉　広島県詩人協会　副会長　井野口慧子
挨　拶　日本詩人クラブ地方大会担当理事・諫川正臣、前広島県詩人協会会長・高垣憲正、元広島県詩人協会会長・福谷昭二
乾　杯　日本詩人クラブ地元会員代表・荒木忠男
スピーチ　遠来の方々若干名（朗読された方以外）
閉会挨拶　広島県詩人協会副会長・川野圭子

懇親会会場にて

▪２月10日広島市内見学

　原爆ドーム前（市電停留所脇）集合９時 → 原民喜詩碑 → 動員学徒慰霊碑 → 平和の鐘 → 原爆供養塔 → 韓国人原爆犠牲者慰霊碑 → 原爆の子の像 → レストハウス（被爆建物）→ 原爆死没者慰霊碑 → 峠三吉詩碑 → 広島平和記念資料館見学10時30分～11時40分（出口集合）→ 昼食 → 解散（希望者はひろしま美術館見学→広島駅15時）

碑やモニュメントの説明を、一つひとつ詳しく伺いました

(中)日本詩人クラブ**例会・イベント**　2008年３月

2008 平成20年３月　詩の学校「世界の詩を愉しむ夕べ」―思潮とポエジーの共有をめざして　担当理事：谷口ちかえ
日　時　３月20日(木)午後６時～８時
場　所　日本詩人クラブ事務所
内　容　・講義「バラードからメルヘンへ―ドイツ物語詩の世界」　講師：川中子義勝氏
　　・閉校式

　ドイツ詩の歴史から宮澤賢治に与えた影響まで、幅広く深く、判りやすい講義でした。盛岡や宮崎からも参加者があり、３０名近くが今期最後の学習をしました。懇親会にもほとんどの人が残り、和気藹々とした雰囲気でした。

2008 平成20年３月　例会　　担当理事：川中子義勝
日　時　３月８日(土)午後２時～５時
場　所　東京大学駒場Iキャンパス　学際交流ホール　電話：03-5454-6447
　　京王井の頭線「駒場東大前」東口下車、徒歩２分
内　容

　　会員による朗読と小スピーチ

岡田喜代子氏　　比留間一成氏

講演「状況論」

講師：石原武氏（第７回「詩界賞」受賞者）

受賞作『遠い歌』をふまえて、日常にひそむ危機や炸裂する現実に対し
詩の言葉がどのように向き合うか、その最近の取り組みの経過と成果などを
お話しいただきました。

会場風景。
７０名近い人にお集まりいただき、懇親会も５０名ほどの人が参加なさり、盛会でした。

2008 平成20年３月　研究会　　担当理事：原田道子
日　時　３月１日(土)午後２時～５時
場　所　東京大学駒場Iキャンパス　18号館４Ｆコラボレーションルーム１　電話：03-5465-8760
　　京王井の頭線「駒場東大前」東口下車、徒歩２分
内　容　講演「詩の言葉　歌の言葉」

講師：安藤元雄氏

会場風景。４０名ほどの人にお集まりいただきました。

新体詩抄、藤村、白秋の歌謡性を昭和期以後の詩、さらには戦後詩において断ち切らせたものは何だったのかを判りやすく解説いただき、その問題点と今後の詩の方向性がどこにあるのか、興味深い講演でした。

(中)日本詩人クラブ**例会・イベント**　2008年４月

2008 平成20年４月　３賞贈呈式　　担当理事：水島美津江
日　時　４月12日(土)午後２時～５時　＊贈呈式後、懇親会
場　所　アイビーホール青学会館４階「クリノン」　電話：03-3409-8181(代)
　　銀座線・半蔵門線・千代田線「表参道駅」下車。Ｂ1、Ｂ2出口より徒歩５分
授賞詩書
　第41回日本詩人クラブ賞　　大掛　史子　詩集『桜鬼』
　第18回日本詩人クラブ新人賞　肌勢とみ子　詩集『そぞろ心』
　第８回日本詩人クラブ詩界賞　鼓直・細野豊編訳『ロルカと27年世代の詩人たち』
　　〃　　藤井　貞和　著　『言葉と戦争』

式次第　・経過報告
　　・選考経過報告
　　・賞贈呈
　　・受賞者紹介
　　・受賞詩集から詩作品朗読
　　・受賞者挨拶
　　・他

大掛史子氏

肌勢とみ子氏

藤井貞和氏

鼓 直氏

細野 豊氏

記念パーティーのスナップ（３階「ナルド」にて）。
祝賀会には120名を越える皆さまがご列席くださり、
記念パーティーも100名近い人がお祝いくださいました。
５人の受賞者の皆さま、おめでとうございました。

2008 平成20年４月　作品研究会　担当理事：原田道子
日　時　４月５日(土)午後２時～５時
場　所　日本詩人クラブ事務所

講師　網谷厚子・禿　慶子・原田道子・村山精二

作品提出者と作品
木村安子(一般参加)「窓」、倉田武彦「一羽の小鳥」、越川泰臣「生徒・児童のブラスバンドを聴いて」、永井正雄「潮騒」、早藤 猛「新たなる生誕」、松本ミチ子「ラストソング」、藤本浄子(一般参加)「キヌサヤ顛末」(作品のみ)、結城 文「四千度」(作品のみ)。

今回は 1 作品30分近くを掛けて、じっくりと批評し合いました。参加者は14名。懇親会もほとんどの人が参加し、研究会以上に盛り上がりました。

(中)日本詩人クラブ**例会・イベント**　2008年５月

2008 平成20年５月　総 会

日　時　５月10日(土) 午後２時～４時30分

会　場　東京大学駒場Iキャンパス　18号館ホール

〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1

渋谷駅より京王井の頭線・駒場東大前東口下車　徒歩２分

議　題　１、平成19年度事業報告および決算報告について

２、平成20年度事業案および予算案について

３、理事会提案事項

４、名誉会員の承認

５、海外客員会員の承認

６、永年会員の顕彰

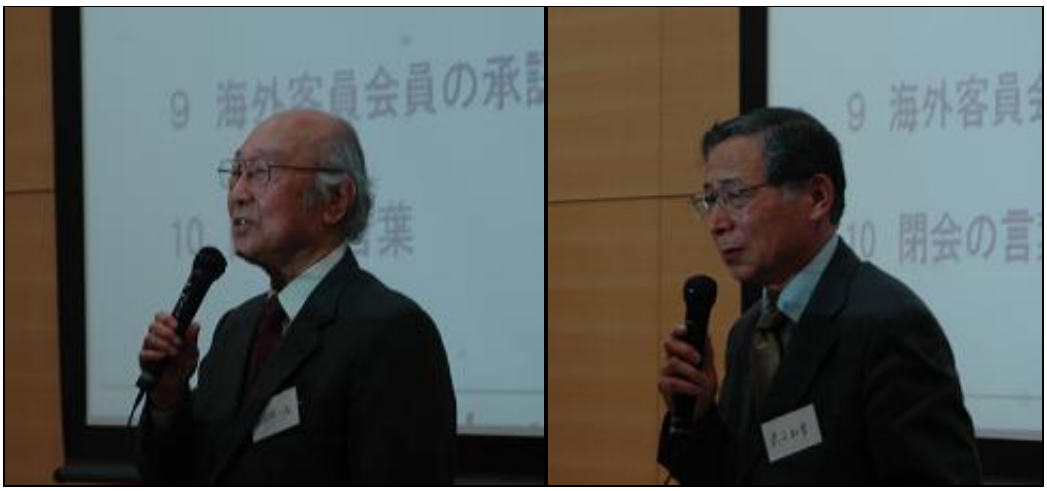
７、会員の意見・消息等

８、その他

懇親会　午後５時より　同キャンパス「ファカルティハウス　セミナールーム」にて

会費 4000円

議長団：田中美千代氏、新延拳氏



名誉会員：比留間一成氏、星野徹氏(代読･武子和幸氏)

永年会員：水谷なりこ氏、渡邊元藏氏

総会会場風景

懇親会会場風景

会場には90名近い会員の出席を得、委任状も500通以上が寄せられて、総会は成立。
理事会提案の議題はすべて承認されました。ありがとうございました。また一年頑張ります。
懇親会では歌やハーモニカ演奏もあって、和やかな雰囲気でした。

(中)日本詩人クラブ**例会・イベント**　2008年６月

2008 平成20年６月　第16回関西大会

日　時　６月14日(土) 午後２時～

会　場　トーコーシティホテル

〒530-0054 大阪市北区南森町1-3-19　TEL 06-6363-1201　FAX 06-6363-5078

ＪＲ東西線大阪天満宮駅・地下鉄南森町駅真上(２号出口)

内　容

今年度日本詩人クラブ賞・同新人賞受賞者の詩の朗読

日本詩人クラブ賞・大掛史子氏

日本詩人クラブ新人賞・肌勢とみ子氏
(代読：田中眞由美氏)

講演「金子みすゞの世界」

島田陽子氏

歌「金子みすゞの歌から」

歌とギター／野田淳子氏

日本詩人クラブ関西の詩人をしのぶ

「天野　忠」下村和子氏

「能登秀夫」蔭山辰子氏

自作詩朗読

伊藤ふみ　岩崎和子　岡隆夫　岡耕秋　佐相憲一　津坂治男　富田和夫　水野ひかる　村田辰

夫
の各氏。写真は岡隆夫氏の朗読パアォーマンスと応援団の女性陣。

懇親会　17時50分〜19時40分　会費 6,500円　大会会場に設営

主　催　有限責任中間法人日本詩人クラブ　　共催　関西詩人協会

大会実行委員
横田英子　蔭山辰子　金堀則夫　神田さよ　左子真由美　佐相憲一　佐藤勝大　志賀英夫　下村和子　外村文象　永井ますみ　中岡淳一　名古きよえ　原圭治　村田辰夫　毛利真佐樹　薬師川虹一

☆定員いっぱいの130名ほどの人にお集まりいただき、なごやかで楽しい時間を過ごすことができました。おいで下さった皆さま、ありがとうございました。ご都合でお見えにならなかった皆さまは、次回ぜひどうぞ！

2008 平成20年６月　オンライン作品研究会　担当理事：原田道子、村山精二
日時　６月７日(土)午前10時〜８日(日)午前10時
＊インターネットのメーリングリストを使ったクローズド研究会です。

提出作品（12編）
和氣康之「あぶらかたぶら」、北村愛子「住宅街の路地」、斎藤幸雄「熱砂と雪」、水崎野里子「従軍慰安婦のために」、千木貢「山荘から」、くらもちさぶろう「ほんだな」、蒼わたる「地球の変動」、じきはらひろみち「悼み言葉」、堀内みちこ「バースデイには花束を」、岡三沙子「ネックレス」、芳賀稔幸「かくれんぼ」、長谷川忍「会わない時間」。

(中)日本詩人クラブ**例会・イベント**　2008年７月

2008 平成20年 ７月例会　　担当理事：川中子義勝

日　時　７月12日(土)　午後２時～５時

場　所　東京大学駒場Iキャンパス　ファカルティハウス・セミナールーム　電話：03-5790-5931

京王井の頭線「駒場東大前」東口下車、徒歩２分

内　容

・名誉会員の紹介

比留間一成氏を紹介する
伊勢山峻氏

比留間一成氏

星野徹氏（欠席）を
紹介する武子和幸氏

・講演「歴史の詩学」

講師：山内昌之氏

会場風景。80名を超える人が名誉会員を祝し、山内先生の歴史観を笑いを交えながら拝聴しました。

懇親会にも50名ほどの人がおいでになり、18号館４Ｆオープンスペースからの夕闇を楽しみながら
お酒とフランス料理を楽しみました。

2008 平成20年７月　研究会　　担当理事・コーディネーター：原田道子

日　時　７月５日(土)　午後２時～５時

場　所　東京大学駒場Iキャンパス　18号館４Ｆコラボレーションルーム１
　　京王井の頭線「駒場東大前」東口下車、徒歩２分　　電話：03-5465-8760

内　容　詩論研究会「詩における地名の輝き」　講師：八木忠栄氏

参加費　会員・会友：無料　一般：500円

＜当日のリーフレットより＞

詩論研究会　「詩における地名の輝き」　講師：八木忠栄

一篇の詩を輝かすパワー、それは何だろうか。もちろん、さまざまな要素が錯綜し作用していることは言うまでもない。「それは○○○である」と簡単に決めつけることは誰にもできない。一篇の詩を書くことに集中しているときの詩人のこころには、自分でも予測のつきかねる時間や空間が入り乱れ、色彩や音や匂い、それらが多彩に入りまじり、緊張と解放を熱くくり返しながら、昂揚しているはずである。

これまでも多くの詩人たちが、作品のなかでとりあげてきたさまざまな土地には、地の霊・地のパワーが宿り蠢いているだろう。豊饒な土地もあれば、血腥い土地もある。美しい土地もあれば、醜い土地もある。地名には宿命的にそうした時空が背負わされている。それを固有の言葉で耕し返して、新たな世界を構築するのが詩人の役割であり、使命である。詩における土地＝地名をないがしろにはできない、と私は考えてきた。

たとえば、西脇順三郎の詩において自在に頻出する地名、大岡信のずばり「地名論」という詩、小野十三郎の大阪、小熊秀雄や宮澤賢治、萩原朔太郎らそれぞれの土地。地名の輝きを放ってやまない多くの詩を具体的に読みながら、「地名」という切り口から詩の魅力にアプローチする。

講師プロフィール

八木忠栄（やぎ・ちゅうえい）1941年新潟生まれ。日本大学芸術学部卒。思潮社で「現代詩手帖」編集長と詩書出版に長年従事。その後、西武百貨店のスタジオ200、銀座セゾン劇場総支配人を歴任。詩集に『きんにくの唄』『八木忠栄詩集』『こがらしの胴』『雲の縁側』（現代詩花椿賞）他、エッセイ集に『詩人漂流ノート』『ぼくの落語ある記』『落語新時代』他、句集に『雪やまず』『身体論』（近刊）がある。「余白句会」「かいぶつ句会」に所属。個人誌「いちばん寒い場所」主宰。青山学院女子短大講師。

講師：八木忠栄氏

会場風景。30名を超える人にお集まりいただき、地名と詩の関係について勉強しました。

(中)日本詩人クラブ**例会・イベント**　2008年８月

2008 平成20年 ７月～８月 第14回詩書画展　　担当理事：金子秀夫
日　時　７月28日(月)～８月３日(日)　ＡＭ11:00～ＰＭ６:30　最終日はＰＭ２:00まで
場　所　地球堂ギャラリー
　　東京都中央区銀座８-８-６　銀栄ビル２Ｆ TEL 03-3572-4811
朗読会　８月２日(土)　ＰＭ３:00～ＰＭ４:30
入場料　無料

作品展示者

特別コーナー
【永田東一郎資料から――河井酔茗、川路柳虹、永田東一郎】
秋元　炯、浅見洋子、天彦五男、新井知次、諫川正臣、伊藤雄一郎、今泉協子、植木肖太郎、卜部昭二、江良亜来子、岡野絵里子　奥沢　拓、笠原三津子、方喰あい子、金子秀夫、川中子義、川端律子、北岡淳子、くろこようこ、小池豊一、琴　天音、佐久間隆史、ささきひろし、鈴切幸子、瀬崎　祐、宗美津子、高島清子、竹村　啓、田中眞由美、中井ひさ子、中谷　俊、中村吾郎、名古きよえ、南原充士、羽切美代子、長谷川忍、花籠悌子、林　柚維、早藤　猛、原田道子、比留間一成、福田美鈴、船木倶子、保坂登志子、細野　豊、保高一夫、堀内みちこ、増田朱躬、丸山勝久、水島美津江、村山精二、森　常治、森ちふく、柳田光紀、結城文、吉田ゆき子、吉田義昭

８月２日朗読会より

特別出演「ウペンドラ and フレンズ」の
ネパール音楽をBGMに朗読

朗読会会場風景

１週間に渡る会期中、延べ250人ほどの来場者がありました。
暑い中をおいで下さり、ありがとうございました。

(中)日本詩人クラブ**例会・イベント**　2008年９月

2008 平成20年 ９月 「詩の学校」第II期 「**世界の詩を楽しむ夕べ」PartII**　　担当理事：谷口ちかえ
——越境する詩　モダンから現代まで——
日　時　９月18日(木) 18:00〜20:00
場　所　日本詩人クラブ事務所
〒162-0808 東京都新宿区天神町71 宇野ビル４Ｆ　電話&FAX 03-6413-7245
地下鉄東西線「神楽坂」駅矢来口(２番出口)下車、徒歩約５分
地下鉄有楽町線「江戸川橋」駅（１ｂ出口）下車、江戸川橋通り沿いに南へ徒歩約５分

内　容　開講式

山村暮鳥「聖三稜玻璃」の衝撃　講師：中村不二夫氏

豊富な資料を配布した講義をしてくださいました。
狭い事務所に30人を超える人が集まり、質疑応答も活発に行われました。

2008 平成20年 ９月例会　　担当理事：川中子義勝
日　時　９月13日(土)　午後２時〜５時
場　所　東京大学駒場Iキャンパス　ファカルティハウス・セミナールーム　電話：03-5790-5931
京王井の頭線「駒場東大前」東口下車、徒歩２分
内　容

小講演「筧槇二氏の生涯と作品」

日本詩人クラブに多大な功績を遺され、本年４月10日に亡くなった
元会長・筧槇二氏の遺影を前に、業績について講演する石原武氏

謝辞を述べる筧夫人

講演「被爆63年・原爆と詩と」

講師：御庄博実氏
自らも被爆されつつ医師として詩人としてヒロシマ・原爆と向き合い、
平和を願い、詩に向かう深い思いを、映像を交えながらお話しいただき
ました。講師は現在、広島共済病院名誉院長。

筧槇二氏ゆかりの人たち、御庄博実氏を慕う人たちが遠く関西からもおいで下さり、100名ほどの来場者となりました。

引き続きの懇親会にも多くの皆様に残っていただき、筧槇二氏の思い出話、御庄博実氏との懇談に華を咲かせました。

＊忘れ物：カメラカバー（オリンパス）　１個
お心当たりの方は zvc05352@nifty.com までご連絡ください。

2008 平成20年 ９月研究会　　担当理事・コーディネーター：原田道子
日　時　９月６日(土)　午後２時～５時
場　所　東京大学駒場Iキャンパス　18号館４Ｆ　コラボレーションルーム１　電話：03-5465-8760

京王井の頭線「駒場東大前」東口下車、徒歩２分
内　容　詩論研究「イマージュ・イデー・ことば」講師：清水 茂氏
参加費　会員・会友無料　会員外500円
●申込み・問い合わせ先　担当：原田道子理事

≪当日のリーフレットより≫

詩におけるイマージュ、イデーとはどのような性質を帯びているのでしょうか。一般的にいえば、どのようなイマージュもイデーも、個別の存在の、それまでの経験の総体であるものに根ざしており、現にいま、私たちの置かれている世界そのものとの刻々の接触、あるいは関係によって形成されるものですが、それらがいったいどのような経路を辿って、詩の要素として生かされるのでしょうか。そこには、閉じた様々の個から、開かれた様態のものへの変容が考えられるのではないでしょうか。

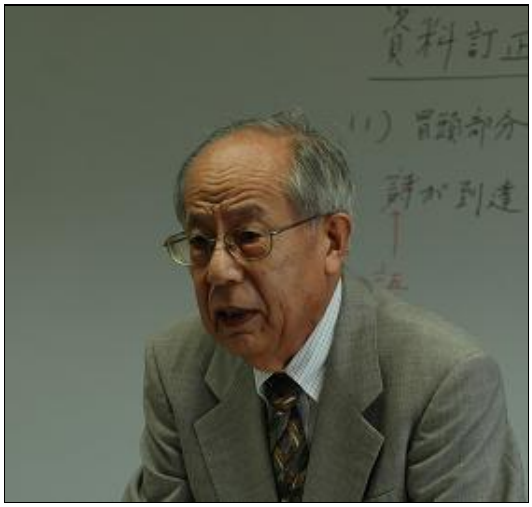
他方、詩とは言語に依拠する表現の一形態にあるわけですから、個が属するひとつの社会、あるいは文化領域に共有されているものです。そのような言語のなかの、何かの要素がときとして詩のことばとして呼吸するのを私たちは感じます。ここには共有された様態から個別の特性の獲得への道筋が考えられそうです。

今回は現代フランスの詩人たち、ルヴェルディ、ボヌフォワ、ジャコッテなどの事例をも参照しながら、「イマージュ・イデー・ことば」の問題を吟味したいと思っています。

≪講師プロフィール≫

清水茂（しみず・しげる）1932年東京生まれ。早稲田大学大学院文学研究科修了。44年間、同校に在職、近・現代のフランス詩などの講義担当ののち、現在は同大学名誉教授。

詩集に『光と風の歌』『影の夢』『冬の霧』『愛と名づけるもの』『新しい朝の詩潮騒』（現代ポイエーシス賞）他、散文に『アシジの春』『薔薇窓の下で』『地下の聖堂　詩人片山敏彦』『ヴェラ・イコン』『詩とミスティック』他。現在「同時代」「Ｑｕａｔｒｅ　Ｖｅｎｔｓ」編集代表



講師：清水　茂氏

会場風景。30名を超える人にお集まりいただき、仏語の原詩も交えた講演を堪能しました。

(中)日本詩人クラブ**例会・イベント**　2008年10月

2008 平成20年 10月 「詩の学校」第II期 「**世界の詩を楽しむ夕べ」PartII**　　担当理事：谷口ちかえ

——越境する詩　モダンから現代まで——

日　時　10月16日(木) 18:00〜20:00

場　所　日本詩人クラブ事務所

〒162-0808 東京都新宿区天神町71 宇野ビル４Ｆ　電話&FAX 03-6413-7245

地下鉄東西線「神楽坂」駅矢来口(２番出口)下車、徒歩約５分

地下鉄有楽町線「江戸川橋」駅（１ｂ出口）下車、江戸川橋通り沿いに南へ徒歩約５分

内　容

「エミリィ・ディキンソンのマイクロコズムからミクロコズムへ」講師：岡隆夫氏

エミリィ・ディキンソン研究の第一人者を岡山よりお迎えし、原詩・翻訳を含めたユニークな講義を25名ほどの受講者が愉しみました。

2008 平成20年 10月例会　　担当理事：川中子義勝

日　時　10月11日(土)　午後２時〜５時

場　所　東京大学駒場Iキャンパス　ファカルティハウス・セミナールーム　電話：03-5790-5931

京王井の頭線「駒場東大前」東口下車、徒歩２分

内　容

・朗読と小スピーチ

中田紀子氏

寺田弘氏
（戦後の朗読運動のことなど）

・講演「現代詩を書きつづけて」

講師：伊藤桂一氏

文字通り現代詩とともに歩んで来られた経験の深みから、現代詩の歴史、またその意義・展望について、多くの詩人たちと交わられた逸話をも含め、独自の光で照らし出していただきました。

会場風景。駒場の森に降り注ぐ秋の陽のもと、80名を超える人が95歳の寺田弘氏、91歳の伊藤桂一氏、中田紀子氏のお話に耳を傾けました。

2008 平成20年 10月研究会　　担当理事：原田道子

日　時　10月４日(土)　午後２時～５時

場　所　東京大学駒場Iキャンパス　18号館４Ｆ　コラボレーションルーム１　電話：03-5465-8760

京王井の頭線「駒場東大前」東口下車、徒歩２分

内　容

詩論研究「日清戦争異聞――抹殺された日清戦争の謎」

コーディネーター：田村雅之氏と講師：樋口覚氏

30名ほどの人にお集まりいただき、萩原朔太郎の意外な側面に触れることができました。

«当日のリーフレットより»

本講演は近代日本の軍楽隊の成立について新しい視角から論じる明治維新論。日露戦争の影で隠蔽されてきた日清戦争について多方向から検討する。とくに晩年の萩原朔太郎が書いた散文詩『日清戦争異聞』に照明をあてて詳しく解剖する。

難攻不落といわれた旅順を攻落し、金鵄勲章をもらい一躍「英雄」となった原田重吉はなぜ転落し浅草の巷に落ちぶれ、近代の歴史から追放されたのか、その数奇な運命について追求するとともに思想家としての萩原朔太郎について考察する。

参考資料「日清戦争と近代日本の軍楽隊」

講師プロフィール

樋口　覚（ひぐち・さとる）1948年長野県生まれ。

一橋大学社会学部卒。文芸評論家。著書に『一九四六年の大岡昇平』（平林たい子賞）、『三絃の誘惑』（三島由紀夫賞）、『書物合戦』（芸術選奨文部科学大臣賞）、『富永太郎』『中原中也』『淀川下り日本百景』など多数。

(中)日本詩人クラブ**例会・イベント**　2008年11月

2008 平成20年 11月 「詩の学校」第II期 「**世界の詩を楽しむ夕べ」PartII**　　担当理事：谷口ちかえ

——越境する詩　モダンから現代まで——

日　時　11月20日(木) 18:00〜20:00

場　所　日本詩人クラブ事務所

〒162-0808 東京都新宿区天神町71 宇野ビル４Ｆ　電話&FAX 03-6413-7245

地下鉄東西線「神楽坂」駅矢来口(２番出口)下車、徒歩約５分

地下鉄有楽町線「江戸川橋」駅（１ｂ出口）下車、江戸川橋通り沿いに南へ徒歩約５分

内　容

オランダ語圏の詩　1×1の詩学　講師：太原千佳子氏

わが国ではほとんど知られていないオランダ語圏の詩。ヘルマン・ド・コーニンクの詩を中心に、よくわかっているものの助けを借りて、未知のものを表現する手法、そこから講師が発見した1×1の詩学を学びました。感嘆の声が揚がる講義を30名ほどの受講者が愉しみました。

2008 平成20年 11月例会　　担当理事：川中子義勝

日　時　11月８日(土)　午後２時〜５時

場　所　東京大学駒場Iキャンパス　学際交流ホール（正門入り右側のピル、エレベータで４Ｆ）

電話　03-5454-6447　　京王井の頭線「駒場東大前」駅東口下車、徒歩１分

参加費　会員・会友無料　会員外500円

内　容

・朗読と小スピーチ

松山妙子氏

山本みち子氏

・講演「美人図によせる詩歌」

講師：ロバート・キャンベル氏

江戸時代から明治にかけて描かれた女性のポートレートには、漢詩、漢文、和歌、発句、狂歌など夥しい韻文が向けられている。実際画面に書き付けられるものもあれば、「美人図」を類型のテーマとして絵画とは別次元に作られ鑑賞された作品も多い。異性（ほとんどの作者は

男）の絵姿を契機として詠まれた詩歌が誰のためにあり、何を伝えようとしたのかを今回の講演を通して探ってみました。

ロバート・キャンベル
　東京大学大学院総合文化研究科教授。近世後期～明治時代の日本文学を専攻。
　1957年米国ニューヨーク市生まれ。ハーバード大学大学院卒（ＰｈＤ）。九州大学文学部専任講師（国語国文学）、国文学研究資料館助教授を経て2000年から東京大学へ。編著に『江戸の声』（東京大学出版会、2006）、『読むことのカ　－東大駒場連続講義－』（講談社、2003）など。

会場風景：上手な日本語で、海外の美術館蔵の美人画も示しながら、漢文も鑑賞しながらのわかり易い講演でした。
参加者は60名ほど、懇親会も40名ほどで和気藹々としたものでした。

2008 平成20年 11月作品研究会（オフライン）　　担当理事：原田道子
日　時　11月１日(土)　午後２時～５時
場　所　日本詩人クラブ事務所
　　〒162-0808 東京都新宿区天神町71　宇野ビル４Ｆ　電話&Fax：03-6413-7245
　　地下鉄東西線「神楽坂」２番出口（矢来町口）下車、徒歩５分
　　地下鉄有楽町線「江戸川橋」（１ｂ出口）下車、徒歩５分
講　師　網谷厚子、禿慶子、原田道子、村山精二
参加費　会員・会友500円、学生無料

内　容
現代詩作品研究会
「バラの風情」早藤猛、「一デナリで出来たこと」越川泰臣、「朝顔」木村安子、「空気くらげの謎　北京の空で」青木ミドリ、「鍾乳洞」倉田武彦、「ど」宮崎亨、「夢の中で」「ひま

わり」永井正雄、「憧憬」斎藤幸雄

９編の作品について20名ほどの人が鑑賞、白熱した議論も展開されましたが、終始なごやかな雰囲気でした。

(中)日本詩人クラブ**例会・イベント**　2008年12月

2008 平成20年 9月 ～ 2009 平成21年 2月　　担当理事：谷口ちかえ

「詩の学校」第II期 「**世界の詩を楽しむ夕べ」PartII**

——越境する詩　モダンから現代まで——

日　時　12月18日(木) 18:00～20:00

場　所　日本詩人クラブ事務所

〒162-0808 東京都新宿区天神町71 宇野ビル４Ｆ　電話&FAX 03-6413-7245

地下鉄東西線「神楽坂」駅矢来口(２番出口)下車、徒歩約５分

地下鉄有楽町線「江戸川橋」駅（１ｂ出口）下車、江戸川橋通り沿いに南へ徒歩約５分

内　容　「萩原朔太郎と萩原葉子」　講師：西岡光秋氏

定員をはるかに超える34名の方に出席いただき、大盛況でした。

2008 平成20年12月　国際交流の集いおよび忘年会

日　時　12月13日(土)午後２時～５時　＊国際交流の集い終了後、忘年会

場　所　アイビーホール青学会館３階「ナルド」　電話：03-3409-8181(代)

銀座線・半蔵門線・千代田線「表参道駅」下車。Ｂ1、Ｂ2出口より徒歩５分

参加費　会員・会友無料　一般500円

国際交流の集いには、九世紀ポーランド王朝の末裔で、アメリカからメキシコに帰化した女性詩人アンバル・パスト氏をお迎えしました。マヤ、アステカ文化やメキシコを愛する理由などを語ってもらい、ジャズ・サックス（尾山修一氏）との競演の自作詩も朗読していただきました。終了後には恒例の忘年会を行いました。

忘年会　国際交流の集い終了後、５時30分より２階「ミルトス」にて

会　費　７,０００円

通訳・翻訳の細野豊理事、アンバル・パスト氏、尾山修一氏

駐日メキシコ大使館の文化担当官もお迎えし、会場は150人を超える人で満員でした。

招聘詩人　アンバル・パストのプロフィール

1949年、アメリカ合衆国ノースカロライナ州生まれ。九世紀に農民から身を起こして、ポーランドに王朝を開いたピアスト王の末裔で、十八世紀にアメリカ合衆国へ移住してパスト姓を名乗った家系に属する。

子供の頃からメキシコ文化の豊かさに魅せられ、度々メキシコを訪れていたが、1974年に故郷を捨ててこの国のチアパス州へ移住し、1985年にはメキシコ国籍を獲得した。文化的観点から、メキシコを豊かな国、アメリカを貧しい国とするアンバルの価値観は観念的なものではなく、このような幼い頃からの体験に根ざしている。

アンバルは、スペイン語よりも前に先住民の言葉を完璧に習得し、彼女の最初の詩集はツォツィル語で刊行された。その後はスペイン語で、「ヤヤメー（御祖母さん）」（1981）、「傾いた海」（1988）、「木こりたちのための夜想曲」（1989）、「かたつむり」（1994）、「わたしが男だったとき」（2004）、「ウラカナ（ハリケーンを意味するウラカンを女性形にした造語）」（2005）などの詩集を刊行した。

解放された自由な精神と鋭い感性で現代の先端的は問題を捉え、ユーモアとアイロニーに満ちた言葉で表現するアンバル・パストの詩は、今や国際的に高く評価されつつあり、英語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語、セルビア・クロアチア語及び日本語に翻訳・出版されている。

アンバルが現代文学に不可欠な存在であると国際的に認められていることは、オックスフォード大学発行の“Ｔｈｅ　Ｏｘｆｏｒｄ　Ｂｏｏｋ　ｏｆ　Ｌａｔｉｎ　Ａｍｅｒｉｃａｎ　Ｐｏｅｔｒｙ”2008年版やポーランドで発行されたアンソロジー「イスパノアメリカ文学の歴史」に彼女の詩が収録されていることでも明らかである。

スペインで最も権威のある詩賞「セルバンテス賞」の2006年度受賞者である詩人アントニオ・ガモネダは次のとおり書いている。「真心と敬意を込めて、アンバル・パストの詩が私に引き起こす多大な賞賛の証を皆様にお届けしたい。それは魅惑的な発見であったし、現状に則して述べるならば、この詩人に『統合メキシコ賞』を授与することが、メキシコ文学を向上させるために正当かつ有効な行為であるという私の考えを明確に表明したい。」惜しくもこの賞の受賞には至らなかったが、その他アンバルは、チアパス自治大学が授与する「チアパス賞」の2008年度の候補者としてもノミネートされた。

詩作のほか、アンバル・パストは世界で唯一マヤの芸術家たちによって運営されている「レニャテロス工房」の創始者でもある。サンクリストバル市にあるこの工房では、手漉き紙、書物、木版画などを製作して、数々の賞も受賞しており、メキシコ国内のみならず国際的にも高い評価を得ている。この工房での仕事

として特記すべきは、「呪文と陶酔－マヤの女たちの歌」という書物を編纂、発行したことである。これは、チアパス高地地方の数十組の男女ペアによる数百の詩的呪文を録音し、それを筆写し、スペイン語や英語に翻訳して書物にしたものである。
　更に、アンバルは開発のための森林伐採に反対する環境保護活動も熱心に行っている。

アンバル・バストの講演要旨
－メキシコに生まれ変わる　詩・神々の食べもの－

　社会における人間の価値が所有する物質的資産によって計られ、芸術や詩よりも効率性がより重要だとされる米国の文化の中に生まれたアンバル・パストは、９歳だった1959年に初めて母親に連れられてメキシコシティを訪れ、休暇の日々を過したとき、この大都市の古い町並み、歴史的建造物、テオティワカンのピラミッド、火山そして人々の心の温かさなどに驚き、魅惑された。
　メキシコとの国境に近い米国テキサス州エルパソ市の保守的で地方色の強い環境に育った少女アンバル・パストにとって、メキシコシティが放つ文化の香りは強烈で、そこは正に古代の文明都市ローマに匹敵するところであり、自分たちは野蛮人だと感じた。
　メキシコは３千年の昔から、ネツァルコアトル、ソル・フアナ・イネス・デ・ラ・クルス、オクタビオ・パス、ハイメ・サビネスなどの偉大な詩人たちを輩出してきた。マヤの神聖な古文書「ポポル・ブフ」には、「詩は神々の食べもの」だと明記されている。神々は、自分たちの食料である詩を作らせるために、人間を創り出したのだ。
　マヤの古文書の殆どは、スペインから来た征服者によって焼き捨てられ、現存するのは征服以前に作られたもの22冊と征服直後に、数少ない心あるスペイン人の指導のもとに作られた54冊のみである。
　しかし、詩を尊ぶ伝統は現代のマヤ系の人々の中にも生きており、詩は日常生活の基本的な要素となっている。物質的には極貧状態にある人たちも常に自らが創る詩に囲まれて生活している。チアパス州では、文盲率がメキシコ中で最も高いにもかかわらず、誰もが皆詩人なのだ。現代のマヤ系の人々の間で名声を得るには詩に通じていることが必要である。多くの詩を暗記している人は賢人と呼ばれる。字義どおりに言えば、「心の中に文字をもつ者」という意味である。
　1974年に、サンフランシスコで主婦として不本意な生活を強いられていたアンバル・パストは、古い衣服を洗濯機に放り込んで、メキシコへと脱出した。そしてメキシコ各地を巡った末にチアパス州サンクリストバル市に安住の地を見出した。ここに至るまでには、メキシコ各地で接した先住民たちから、「お行儀の悪い子はグリンガ（白人女）にあげてしまうよ」とか「グリンガは赤子を盗んで飛行機の燃料油にするんだ」とか言われた時期もあったが、34年間この地に住んで、詩人であり、工芸家、環境保護活動家でもあるアンバル・パストは、この土地の風土と社会に溶け込んで、今や誇り高きメキシコ人である。ここは、バニュロス、ロサリオ・カステリヤノス、ハイメ・サビネス等を生んだ「詩人の土地」である。人は幾度か生まれ変われるが、アンバル・パストはここメキシコで生まれ変わったのだ。

2008 平成20年12月　オンライン作品研究会　担当理事：原田道子、村山精二
日時　12月６日(土)午前10時～７日(日)午前10時
＊インターネットのメーリングリストを使ったクローズド研究会です。

参加作品・作者（敬称略）
「クリスマスキャロル」堀内みちこ、「独りへの願望」岡三沙子、「剪定鋏」芳賀稔幸、「パール・ハーバーを忘れてはいませんか？」水崎野里子、「ビニールぶくろ」くらもち　さぶろう、「プレリュード」サーカー和美、「消えた村」直原弘道、「弱さから生まれるもの」須藤あきこ、「山荘にて」千木貢、「Dos

Hombres 二人の男」田中健太郎、「不忍池」長谷川忍、「道展」佐藤　孝。